

# ここで、自分らしく暮らしたい

今後の社会は、ますます高齢化が進み、これまで以上に認知症の人数が増えていくことが予測されています。ここでは、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができる社会を目指するための施策や取り組みを紹介します。



## 認知症 初期集中支援チーム発足

「認知症初期集中支援チーム」は、医師や看護師、精神保健福祉士などさまざまな専門職で構成するチームで、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、認知症の人やその家族に早期に関わって支援する組織です。認知症は、症状の軽いうちから適切な支援を行うことで、症状の進行を遅らせることができる場合があるので、早期発見が重要です。認知症のことで気になることがあれば、市地域包括支援センターに相談してください。

- ① 地域包括支援センターに相談
- ② チーム員と地域包括支援センタースタッフが自宅訪問して状況を把握・支援を検討
- ③ 必要な支援を実施（かかりつけ医、医療機関への受診助言など）
- ④ ケアマネジャーなどへ引継ぎ

## 世界共通の課題に取り組む「オレンジプラン」

今や、高齢化に伴う認知症の人の増加への対応は世界共通の課題です。この状況を踏まえ、国は、平成24年9月に「認知症になってからも本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域での暮らしを続けることができる社会」の実現を目指す「認知症施策推進5か年計画（オレンジプラン）」を策定。平成25年度～29年度で取り組むべき施策や具体的な数値目標を示しました。

略（「新オレンジプラン」を策定。これに基づき、国の関係省庁が連携して横断的に取り組むことで、認知症施策の加速を図りました。）

- ④ 認知症の人の介護者への支援
- ⑤ 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進
- ⑥ 認知症の予防法・診断法・治療法・リハビリテーションモデルなどの研究開発と成果の普及の推進
- ⑦ 認知症の人やその家族の視点の重視

「新オレンジプラン」が目指す「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域での暮らしを続けることができる社会」の実現には、次の7つの柱を確立することが必要です。

## 7つの柱で支える

① 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進  
② 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護などの提供  
③ 若年性認知症施策の強化

「認知症カフェ」が「認知症の人の介護者への支援」の一環として、市は「認知症カフェ」の取り組みをスタートさせました。この「認知症カフェ」は、認知症の人とその家族、地域住民、専門職の人など、誰もが集うことができる場所、身近にあつて気軽に立ち寄ることができる。

また、「⑥認知症の人を含む高齢者等SOSネットワークの強化」も継続して実施。鎮西校区や弓削田校区、金川校区に続き、本年度は中央校区でも訓練を実施しました。

# あなたの身近に「認知症カフェ」

【認知症カフェ協定事業者募集中】  
認知症カフェの設置や運営には、それを担う事業者の協力が不可欠です。市では、今後の設置に向けて協力いただける団体などを募集しています。詳しくは市地域包括支援センターにお問い合わせください。

カフェの名称	開催日時	開催場所		主な内容
		問い合わせ		
認知症カフェ ココイタ	毎月 第3金曜日 10:30～12:30	伊田商店街 リトロボココイタ	物忘れトレーニング ミュージックケア など	伊田商店街振興組合 ☎44-6161
寄り合いカフェ 癒気多	毎月 第3土曜日 10:00～12:00	見立病院 デイケア	アロマオイル活用法 ミュージックケア など	見立病院 ☎44-0924
和民家カフェ まごころ	毎月 第3木曜日 13:00～15:00	まごころ 地域コミュニティハウス	健康体操 小物作りなど	社会福祉法人 まごころ ☎42-8855
まちの 健康相談カフェ ひまわり	8月を除く 偶数月の15日 (公的年金支給日) 10:30～12:30	後藤寺商店街 サンシャイン通り	健康たーんと体操 ミュージックケア など	田川市地域包括支援センター ☎42-9420

## 「どこ行くと？」地域で声かけ 見守ろう！ 高齢者等SOS模擬訓練を実施

### 手法を変えてステップアップ

【弓削田校区・7月2日】

昨年に続き2回目の訓練に取り組んだ弓削田校区では、訓練の実施を事前に地域住民に知らせず、当日に区長による防災無線で行方不明者の情報を放送するという新たな手法に挑戦。本番さながらの訓練ではありましたが、133人が参加するなど、昨年の訓練の成果が見られました。



警察や消防団も訓練を支援

### 初の試みに手ごたえあり

【中央校区・7月2日】

中央校区で初めて実施した訓練には、地域住民など161人が参加。行方不明者役の人が決められたコースを歩きながら、所定のポイントで、参加者が声かけや対応の方法などを模擬的に体験して学びました。反省会では今後に向けたさまざまな意見が交わされ、校区をあげて見守りに取り組む機運が高まった様子でした。



「どこ行くと？」このひと声が大切です